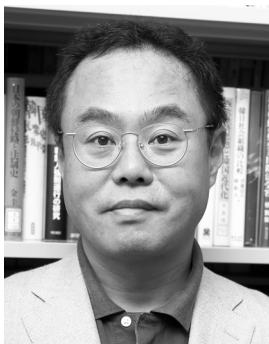


◆経済倶楽部講演会第4280回（3月8日）

朝鮮半島をどう見るか —変化する北東アジアの国際環境を考える

神戸大学大学院教授 木村幹

- * 対日政策がない文在寅政権
- * 対日過激発言が目立つのは2000年以降
- * 大きく変化した日韓の貿易シェア
- * 対日関係の変化は朴槿恵政権から
- * 世論調査に見る日本に対する関心の薄さ
- * 数年以内に日本を抜く韓国の軍事費
- * 背景にあるのは経済成長率の差
- * 文在寅政権の対日政策を支える二つの教訓
- * 戦後の対日関係はどう変化したか
- * 朴政権時代から判決が出ていた徴用工問題



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は初めて神戸大学の木村先生においでいただきました。京都大学で博士号を取得され、現在は神戸大学で教鞭をとっておられます。韓国、日韓関係については、メディアに出ている情報はたいへんバイアスがかかっている場合が多いようにございますので、今日は日韓の問題について冷静な分析を木村先生からお聞かせいただけたと思います。それでは木村先生よろしくお願いいたします。（拍手）

木村 ご紹介にあずかりました神戸大学の木村でございます。今回はたいへん歴史あるこの会で話す事ができまして、たいへん光栄に思います。

ちなみにこのご依頼をいただいたのはおそら

く12月ぐらいだと思うんですけども、ご存じのとおり日韓関係及び北朝鮮関係は、その後も大きく動いております。どの程度まで今日のお話でカバーできるのか不安ですが、よろしくお話し申し上げます。また表題はもとの題材のものと微妙に変わっていたりしますが、特に意味があるわけではありません。気分のようなものですので、気にしないで進みたいと思います。お話のメインは日韓関係です。

対日政策がない文在寅政権

現在の日韓間には様々な出来事が起こっていますが、その中で何が最も今の状況を象徴しているか。その答えは私にとっては、今年の1月10日に文在寅大統領が行った記者会見になりま